

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

【もくじ】

R1.12 現在

資源を活かした地域への展開			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
1	園児との交流	社会福祉法人聖寿会 特別養護老人ホーム健生苑	2
2	聖光会での地域への取り組み「希望ヶ丘カフェ」の開催	社会福祉法人聖光会 特別養護老人ホーム蒼水園	4
3	地域の小学生たちとの異世代交流 「老人ホームに遊びに来ませんか？」	社会福祉法人善き牧者会 養護老人ホーム聖園老人ホーム	6
4	資源物回収作業への参加	社会福祉法人聖寿会 特別養護老人ホーム健生苑	8

地域づくり			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
5	鹿児島市医療介護連携ネットワーク・西部地区連携の会 (WA-net (WestArea-Network))	社会福祉法人中江報徳園 特別養護老人ホームひまわり園	9
6	講師の派遣	社会福祉法人聖寿会 松元居宅介護事業所	11

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

資源を活かした地域への展開			
園児との交流			
法人名	社会福祉法人聖寿会	法人創立年	昭和47年4月14日
所在地	〒899-2701 鹿児島市石谷町 3523 番地 099-278-2720		
法人理念・経営方針	多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。	法人の実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ○特別養護老人ホーム ○養護老人ホーム ○短期入所生活介護事業 ○通所介護事業 ○訪問介護事業 ○居宅介護支援事業 ○配食サービス事業

活動取組について	実施施設の概要	○施設名：特別養護老人ホーム健生苑・養護老人ホーム聖寿園 松元デイサービスセンター
	活動内容	○活動開始日：約20年前から現在に至る ○活動の対象者：近隣保育園他 ○活動の頻度 芋掘り（年1回）園児との交流：年2回
	主な経費や財源、人員等	○今回の取組みに関わった職員数や職種名：生活相談員・介護職員、来園児、園児引率者等 ○法人全体の事業規模：職員数98名

活動実施の背景、実施にいたった理由

法人敷地内に小さな畑があり、サツマイモを植え、近隣住民がご厚意で農機を使って耕したり、除草など手伝ってもらっている。そこに近隣の保育園児に収穫していただく事について提案があり、定期的な保育園との世代間交流に至っている。

取組みの内容

例年近隣住民が園児数分の畝を整地し芋畑を作っている。保育園児に数名の職員が付き添い一緒に芋ほりを行う。施設利用者は近くで見守り、園児が掘った芋を褒める係を担っていただき、両者共に充実した様子が見られる。芋はビニール袋に数本ずつ入れ園児に持って帰ってもらい、残りは保育園に渡し給食に利用されている。「思いやる心」「敬う心」など醸成され、つながりを深めた世代間交流が取り組まれている様に思われる。



活動の効果と課題

芋ほりのお返しに、施設の広い駐車場にて例年保育園の運動会で行っているマーチングを披露していただいている。その後簡単なゲームなどを行い交流を深め、利用者さんも楽しみにしている活動の1つである。



昨年度はクワガタやカブト虫を保育園に届けると、その後の虫の様子をとりまとめ、年長組の皆さんが卒園前に報告に来てくださいました。

施設へ足を運んでもらうことで、施設の事業内容などを理解認識してもらい、世代間交流を活発化させている。

今後の展開

定期的な交流の機会を図り、これからも継続した交流を図り、法人の事業、取り組みを周知していきたい。

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

資源を活かした地域への展開			
聖光会での地域への取り組み「希望ヶ丘カフェ」の開催			
法人名	社会福祉法人聖光会	法人創立年	昭和 53 年 9 月
所在地	〒893-2504 鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本 1250-1 電話 0994-24-3100		
法人理念・経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ○人間としての尊厳と社会連帯の思想を基本理念とし、公平・公正な法人運営に努めます。 ○常に健全かつ活力ある経営に努めると共に、民間社会福祉事業としての独自性を発揮し住民の期待にこたえます。 ○施設の機能を挙げて地域福祉の発展に寄与するために職員の資質向上を図り、地域住民より信頼されるよう努めます。 	法人の実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ○経営施設数合計 6 ○経営施設・事業 介護老人福祉施設・併設短期入所生活介護・通所介護・訪問介護・グループホーム・配食センター・指定居宅介護支援事業所・在宅介護支援センター

活動取組みに ついて	実施施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○施設名：特別養護老人ホーム蒼水園 ○施設種別（定員数）：特別養護老人ホーム（入所 50・ショート 16）
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○活動開始年：希望ヶ丘カフェ（平成 28 年 11 月から開始） ○活動の対象者：認知症高齢者と家族・介護者・介護経験者・民生委員・その他の利用されたい地域住民の方々。 ○活動の頻度・時間：毎月第 3 火曜日を基本として 10 時から 13 時に開催。
	主な経費や財源、人員等	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の取り組みに関わった職員数や職種名 介護支援専門員・社会福祉士・介護福祉士・管理栄養士・栄養士などの専門職。（活動に携わったスタッフの人数は年間 60 名程度） 希望ヶ丘カフェ年間利用者数：平成 29 年度 112 名・平成 30 年度 161 名 利用料：無料 参加費や各種お飲み物、お茶菓子は無料。お食事が必要な方はスタッフが伺いしてお弁当屋さんにご注文配達。（税込 400 円） ○法人全体の事業規模 法人全体職員 96 名

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人のある南大隅町は大隅半島の最南端に位置しており、人口減少の問題や高齢化率 45%という県内 1 位の高齢化が進んでいる町です。年々地域にも空き家が増え、高齢者や認知症の介護に悩む介護者等が気軽に話をする事や、人と交流する機会なども少なくなってきました。また、制度の狭間で通いの場に行けない方、介護を経験し



た後に家族を失った喪失感のある方等おられる事に気付いた居宅介護支援事業所の介護支援専門員などの声もありました。そういった様々な事情がある方々が集える場所の提供を行うと共に法人内の多職種による専門的な対応を通して個々の問題解決へ繋げる支援としてカフェを創設しました。当法人は小高い丘の上に立地していることと希望の光ともなれるようにとの願いを込めて「希望ヶ丘カフェ」と命名しました。

取り組みの内容

希望ヶ丘カフェを開催するに当たり、町の担当課への案内や、地域包括支援センター等と連携をとって開始する事としました。対象者についての情報も交換しながら、最初は在宅介護に悩む介護者を中心に参加頂きました。その後、地域に埋もれていた認知症の症状により地域での交流が減っていた方にも参加頂くことになりました。介護者の方には専門のスタッフが付き添い、その場のコーディネートをしなが意見交換や時に個別の相談支援も行い、認知症の方に対しては個別の対応にて、その時間を過ごしてもらえよう支援する事としました。行事の内容も月替わりで検討し、職員による楽器演奏の披露や陶芸の体験、たこ焼きやパンケーキ作りなども行って参加者が普段

の生活ではなかなかされないような活動の機会も持ってもらえるようにしています。

活動の効果と課題

【活動の効果】

- 認知症で易怒性が強い利用者は、経験のある介護支援専門員が個別に対応する事により介護者以外の人の受入れが出来る様になる事を目的として対応を行った。参加を続けることで他者の受入れも慣れてきて通所サービスの利用が出来る様になり、介護者の負担軽減につながった。
- 普段は人には話せないような相談も、専門職の傾聴の姿勢で安心感をもってもらい、参加した他の利用者も同じような悩みを持っている事を知り、気軽に相談し合える雰囲気になった。
- 認知症の介護をしている方が、わかってもらえない気持ちを理解してもらえるようになった事で介護にやりがいが出てきた。
- 以前、家族を介護していた方が経験談を話すなどして活躍する機会を持てるようになり、グリーンケアに繋がった。

【課題】

- 公共の交通機関などの社会資源が乏しく、送迎が必要な対象者に対してある程度対応はしているが、遠方までの送迎が難しく利用できていない地区があるので方法を検討したい。
- 定期的に広報誌等で参加の案内をしているが、現在の開催回数が1回/月であり、1度の参加定員がスペースの関係で18名程度の受け入れしか出来ない為に開催回数についても検討したい。



今後の展開

- 地域の社会資源が乏しい中で、介護に携わっている他の法人や事業所の専門職の方にもご参加頂き、専門職の方も仕事の悩みなどを相談しあってストレスによる離職などが防げるような支援にも繋がりたい。
- 他の社会福祉法人や各種団体等との連携を図って地域全体の方の利用が可能となるよう働きかけも行っていきたい。



社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

資源を活かした地域への展開			
地域の小学生たちとの異世代交流 「老人ホームに遊びに来ませんか？」			
法人名	社会福祉法人 善き牧者会	法人創立年	1967年（昭和42年）
所在地	〒891-0117 鹿児島県鹿児島市西谷山1丁目1番15号		
法人理念・経営方針	「わたしが来たのは羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。わたしはよい羊飼いである。よい羊飼いは羊のために命を捨てる。」と言われたイエス・キリストの教えを基本理念としている。したがって、ひとりひとりを大切に、利用者が自由に安心して可能な限り幸せな日々の生活を送り、よい終わりを迎えることが出来るように、物心両面からの援助をすることを基本精神としている。	法人の実施事業	○経営施設数合計 2か所 ○経営施設・事業 3事業 児童養護施設 養護老人ホーム (特定施設入居者生活介護)

活動取り組みについて	実施施設の概要	○施設名：聖園老人ホーム 所在地：鹿児島県阿久根市西目 5820 番地 ○施設種別（定員数）：養護老人ホーム（定員 60 名）
	活動内容	○活動開始年：令和元年 9 月 23 日 ○活動の対象者：地域に住む小学生と養護老人ホームの入居者 ○活動の頻度・時間：年 2～3 回程度（予定） 14：00～16：00
	主な経費や財源、人員等	○今回の取り組みに関わった職員数や職種名： 相談員・事務職・看護職・介護職・ケアマネ ○取り組みを実施している施設の事業規模 養護老人ホーム入居 60 床、うち特定利用者 26 名

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人が運営する養護老人ホームは、平成 24 年 7 月に現在の地に移転した為、地域との関係は希薄であった。移転当初から様々な地域交流を図ってきたが、人口が少ないため活動が制限されている。買い物支援や施設の開放、福祉車両の貸し出しも提案したが地域のニーズに合わず、活動は主に施設で行われるイベントへの招待と職員の地域清掃となっている。

新しい取り組みに当たって、当施設の目の前に市営・県営の住宅があり、小学生も地域の小学校に通っていることが分かったため、「私たちの老人ホームに遊びに来ませんか？」と声掛けをし、異世代交流をすることになった。

取り組みの内容

- ①地域の育成会長を通じて、子ども達に案内のチラシを配る。
開催日：令和元年 9 月 23 日（秋分の日）
開催場所：鹿児島県阿久根市西目 5820 番地
聖園老人ホーム
開催時間：14：00-16：00 の 2 時間程度
- ②入居者と「子供達とのおやつ作りは何がいいか」話し合う。

「どら焼き」を作る。生地を焼く人、冷ます人、あんこを乗せる人、生クリームを乗せる人を子供たちと分担し、出来上がったどら焼きを一緒に食べる。また、配膳も子供たちに手伝ってもらう。





活動の効果と課題

当日は、子供 12 名と母親 1 名が参加された。

取組の手法等

ホットプレート 3 台を準備し、生地を焼いていく。子供たちも緊張している様子だったが、入居者に話しかけられて少しずつ打ち解けていた。途中、電源が落ち中断するハプニングがあったが、入居者・子供たち全員分を 1 時間ほど作りあげた。子供たちが配膳すると笑顔で話しかける入居者が多くいた。



アンケートをお願いする

(小学生のみ 12 名中 11 名回答)

☆今回の取り組みについての感想

楽しかった 11 名

☆次回の開催では何を作りたいか。

クッキー、ケーキ、アイスクリーム、パフェ

☆老人ホームでやりたいこと

ゲーム



取組を終えて

計画当初は、参加者があるのか何名ほど来て頂けるのか心配していたが思ったよりたくさんの参加者があり、入居者の笑顔が見られたことは大変良かったと思う。また、次回の開催の希望もあったので、今後に繋げていけるようにしたい。地域の方々にも施設から様々な発信をしていき、また地域の情報も共有しながら、お互いが共生していける地域作りが大切だと思う。



今後の展開

今回は、子供たちとの交流が目的であった。今後もこの取組をさらに発展させ、交流を続けて行きたい。また地域のみなさまがこの施設を地域の活動の場として利用して頂くこと、入居者を地域の一員として受け入れて頂くこと、地域にお住まいの高齢者を施設側も見守っていくことを、実践できるようにしていきたい。

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

資源を活かした地域への展開			
資源物回収活動への参加			
法人名	社会福祉法人聖寿会	法人創立年	昭和47年4月14日
所在地	〒899-2701 鹿児島市石谷町 3523 番地 099-278-2720		
法人理念・経営方針	多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。	法人の実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ○特別養護老人ホーム ○養護老人ホーム ○短期入所生活介護事業 ○通所介護事業 ○訪問介護事業 ○居宅介護支援事業 ○配食サービス事業

活動取り組みについて	実施施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○施設名：特別養護老人ホーム健生苑 ○種別：指定介護老人福祉施設 定員数：50名
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○活動開始日：平成29年から現在に至る ○活動の対象者：地域住民、PTA ○活動の頻度・時間：年2回
	主な経費や財源、人員等	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の取り組みに関わった職員数や職種名：施設職員（生活相談員、管理栄養士、介護職員）、地域小学校PTA ○取り組みを実施している施設の事業規模：特養50床 ○法人全体の事業規模：職員数98名

活動実施の背景、実施にいたった理由

これまででも地域の小学校とは総合学習を通して交流はあった。

5年生2クラスがそれぞれ年2回1日訪問して交流を行っている。子供の中から1名モデルの協力をお願いしておむつ交換やベットメイキング、リフトの体験や刻み食試食などを行っている。子供たちはお礼に歌を披露して帰り、1日訪問の報告を学習発表会でする際に学校へ招待いただいている。

地域小学校のPTA役員だった方の話から、環境活動の一環である資源物回収活動へ参加し、施設から業者を通じて廃棄される段ボール箱等を資源ごみとして支援・協力できないか提案があり、活動に参加することとなった。

取り組みの内容

地域小学校の廃品回収に参加することとなり、施設から排出される資源ごみの保管場所を事業者全体で管理し、全職員にその旨周知・協力依頼を行った。年2回の資源物回収活動についてPTAから呼びかけを頂き、排出時は職員が軽トラックで運搬、PTAの方々に運搬搬入等の協力を頂き連携して活動を行っている。

活動の効果と課題

これまでの文化祭や運動会参加の様な学校行事以外の交流の場となった。子供達だけでなく

PTAを通し新興住宅地近くで施設を広く知ってもらえる場となった。学校行事等の案内も頻回になり、今まで以上に若い世代との交流が活発になったと思われる。

施設の保管場所への数量が予想以上となり、近隣自治会の廃品回収にも資源物として支援・協力を行うこととした。

今後の展開

若い世代との交流を通して、地域全体の活性化に貢献できたのではないかと。地域との共生を図り、地域を支えるように取り組んでいきたい。

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
鹿児島市医療介護連携ネットワーク・西部地区連携の会 (WA-net (WestArea-Network))			
法人名	社会福祉法人 中江報徳園	法人創立年	昭和43年2月
所在地	〒891-1205 鹿児島市犬迫町5407番地2		
法人理念・経営方針	知恩報徳～人は恩の海に住む～ ① 利用者の尊厳を尊重し、安全・安心・誠実をモットーに福祉サービスの向上を目指します ② 地域包括ケアシステムの中で、地域に対し公益的な取り組みを推進し、信頼と協力を得るための情報発信に努めます ③ 良質な人材確保のために働き甲斐のある、魅力的な職場づくりに取り組み、円滑で良好な組織風土を目指します ④ 健全な経営・運営を旨とし、継続的・安定的事業の展開に全力を尽くします	法人の実施事業	○経営施設数合計 (10事業) ○経営施設・事業 ① 特別養護老人ホーム ② 短期入所生活介護 ③ 訪問介護 ④ 訪問入浴 ⑤ 通所介護事業 ⑥ 認知症対応型共同生活介護(2拠点) ⑦ 小規模多機能型居宅介護 ⑧ 居宅介護支援事業所 ⑨ 生き生きセンターひまわり園 ⑩ 住宅型有料老人ホーム ※⑨⑩は介護保険外

活動取り組みについて	実施施設の概要	○法人名：社会福祉法人中江報徳園 ○高齢福祉事業
	活動内容	○活動開始年：平成26年2月～ ○活動の対象者：地域の医療介護事業者および行政 ○活動の頻度・時間：概ね年2回 18:00～21:00
	主な経費や財源、人員等	○会場使用料、講師派遣、事務費 ○運営メンバーは毎回15～20名程度

活動実施の背景、実施にいたった理由

これからの地域の高齢者を支えていくために、どのように連携強化を行っていくか勉強したり、意見交換を行う集いの場として「西部地区連携の会」を創設した。

医療福祉の「ネットワークの輪」を広げるために、医療機関および介護福祉事業所の顔の見える関係作りの場として活動を行っている。

取り組みの内容

医療法人と連携を図り、運営メンバーで企画を行い病院や診療所、居宅系介護保険事業者、介護保険施設、行政など250か所に案内を送付し、毎回150名から250名程度の参加を頂き活動を行っている。医療・福祉関係者が集いやすいよう、年2回程度18時を開始時間とすることとした。

【第1回】

第1部講演

「鹿児島市における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み～医療と介護の連携について～」

演者：鹿児島市健康福祉局局長 藤田幸雄氏

第2部意見交換会(懇親会)

【第2回】

第1部事例発表・パネルディスカッション

「地域包括ケアへの第一歩～高度急性期医療から在宅療養まで連携を行った事例～」

事例発表及びパネリスト：

①急性期医療：鹿児島市立病院地域連携室看護師長 富吉奈美子氏

②回復期医療：玉水会病院回復期リハビリテーション病棟理学療法士 益山康秀氏

③在宅支援：介護支援センターひまわり園ケアマネージャー阿部郁美氏

④在宅医療：五反田内科クリニック院長五反田満幸先生

第2部意見交換会(懇親会)

【第3回】

第1部講演

「認知症の方が地域で生ききるために～これが期待されている地域包括ケアシステム～」

演者：厚生労働省社会援護局社会福祉士 猿渡進平氏（前大牟田市医療法人静光園白川病院ソーシャルワーカー）

第2部意見交換会（懇親会）

【第4回】

ワークショップ

「鹿児島医療介護未来会議」

コーディネーター：永山 由高 氏 《一般社団法人鹿児島天文館総合研究所理事長》

【第5回】

第1部講演

「医療と介護の連携のメリット～2018年同時改定までにやっておくこと～」

講師：株式会社ヘルスケア経営研究所副所長 酒井 麻由美氏

第2部意見交換会（懇親会）

【第6回】

第1部講演

「鹿児島市における予防介護・日常生活支援総合事業の取り組み」

演者：鹿児島市すこやか長寿部長寿支援課参事 椎木明彦氏

第2部住民主体による活動事例発表

「上町健康大学の取り組みについて」

演者：上町健康大学事務局長 後田逸馬氏

【第7回】

第1部講演

「地域包括ケアシステムにおける住民と事業者の役割～先進事例を通して考える～」

演者：地域ケア総合研究所所長 竹重俊文氏

パネルディスカッション

「医療と介護の連携で住民とつくる地域包括ケアシステム」

コーディネーター：地域ケア総合研究所所長 竹重俊文氏

パネリスト：地域住民代表・生活支援コーディネーター・医療事業者代表・介護事業者代表

第2部意見交換会（懇親会）

【第8回】

講演「平成30年同時改定はこうなる！今からとるべき戦略とは」

演者：地域ケア総合研究所所長 竹重俊文氏

【第9回】

講演「定着する人材の採用と育成方法」

演者：一般社団法人看護職の採用と定着を考える会代表理事 諸橋泰夫氏

【第10回】

講演「予期せぬ災害、私たちはどう動くのか！～病院及び介護施設の災害対策を考える～」

演者：首都大学東京客員教授 工学博士 泉耕二氏

活動の効果と課題

毎回、200名前後の多機関・多職種の参加にて研鑽及び顔の見える関係づくりにつながっている。

今後の展開

今後も医療介護の情勢に応じた情報提供と更なる顔の見える関係作りを継続していきたい。

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
講師の派遣			
法人名	社会福祉法人聖寿会	法人創立年	昭和 47 年 4 月 14 日
所在地	〒899-2701 鹿児島市石谷町 3523 番地 099-278-2720		
法人理念・経営方針	多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。	法人の実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ○特別養護老人ホーム ○養護老人ホーム ○短期入所生活介護事業 ○通所介護事業 ○訪問介護事業 ○居宅介護支援事業 ○配食サービス事業

活動取組みについて	実施施設の概要	○施設名：松元居宅介護事業所
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○活動開始日：平成 29 年から現在に至る ○活動の対象者：地域住民 ○活動の頻度 年 1～2 回
	主な経費や財源、人員等	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の取組みに関わった職員数や職種名：栄養士、管理者等施設職員 ○取組みを実施している施設の事業規模： ○法人全体の事業規模：職員数 98 名

活動実施の背景、実施にいたった理由

地域のサロンから健康運動の講師派遣について依頼をいただいた。日頃から専門的職員の技能・知識を地域で役立てたいとの思いもあり、喜んで講師派遣を企画することとなった。

取組みの内容

10名程の地域サロンにてデイサービスセンター職員を派遣し、地域住民への出前講座を行った。サロン参加者から好評を頂き、その後も看護職による健康相談や栄養士による食事・栄養についてなど講座を行っている。噂は別のサロンにも広まり要請あれば出向かうようになっている。

また、「介護保険について分からないから教えてほしい」といった質問や要請も多く、介護保険事業者として広報の必要性や地域住民の意識の高さも伺えた。

活動の効果と課題

バランスの取れた食生活、及び健康的な運動等を行うことで疾病等の予防に努めるようになり、地域住民が健康的な生活を送ることができるよう、意識づけをする機会となった。

本年度は非常食料理教室も行い、好評をいただいた。

地域のコミュニティ作りに役立てているのではないかと感じている。

今後の展開

定期的に交流の機会を図り、地域の社会資源として事業者・施設の役割を理解して頂くよう、今後も活動をしていきたい。